

**TICAD V 公式サイドイベント**  
**「包摂的成長と不平等の克服:ポスト 2015 年開発枠組みへの TICAD V の貢献」**  
**<議事概要>**

開催日時:2013 年 5 月 31 日 13:00~14:30

会場:パシフィコ横浜アネックスホール B 会場(F201)

**1. 基調講演**

**リベリア共和国大統領 エレン・ジョンソン=サーリーフ氏**

本日このイベントに参加できたことを嬉しく思います。包括的成長と不平等は、開発における地球規模の課題ですが、特にアフリカでの取り組みが不可欠な課題です。

現在アフリカは、歴史的な転換点を迎えています。アフリカは日々より明るく繁栄した未来に向けて成長を続けています。私たちは何千人もの人々に保健医療、教育、雇用機会を提供し、貧しい人々が貧困から抜け出せるように取り組んでいます。

しかし依然として大きな挑戦が立ちまわっています。若い人たちの失業は 20%にもおよび、深刻な課題です。また 133 百万人の若い人たちが基礎教育、保健サービス、そして家までも必要としています。

アフリカ開発銀行の推計によると、これらの基本的な課題を解決するためには、2020 年まで追加で 930 億ドルが必要とされています。

技術革新や鉱物資源の恩恵を受けている地域がある一方で、その他の地域が取り残されています。アフリカの多くの地域が貧しいままでいるにもかかわらず、他地域の富がアフリカを源としているという開発パラドックスが見られます。

不平等は世界的な課題です。富裕層の上位 1.75%の所得は貧困層の下位 77%の所得に匹敵し、1 日 1 ドル以下で暮らす人々が 12 億人います。多くの女性が働きがいのある人間らしい仕事を持たず、土地を所有できず、司法へのアクセスを持たず、政治的役割に占める割合も低い状況です。女性への政治参加には依然困難が伴い、日本でも女性の国会議員が占める割合はわずか 7.8%です。

私たちは、成長の一方で拡大する不平等を除去し、アフリカの全ての人々にとっての繁栄の道を歩まなければなりません。私たちは、急進的な経済変革を目指す必要があります。全ての人に健康的な生活をおくるための賃金を得られる雇用機会を提供するには、これまでと同じやり方を続けるわけにはいきません。私たちは、経済投資と多様化のための環境を整える必要があります。私たちは自然資源を保護し、それが衡平に活用されるようにしなければなりません。経済変革において不可欠なのは、伝統的に周縁化されている人々、学術界、民間のフィランソロフィー団体等を含む全てのステークホルダー間の、互いを尊重し、責任を負担し合うグローバル・パートナーシップです。

私たちは出来る限り、基礎的社会サービスへの平等なアクセスを確保し、一人も取り残されないように取り組まねばなりません。ポスト 2015 年開発目標を検討するにあたり、私達は貧困から抜け出すために何が必要かを、貧しい人々に聞き取りました。

政府はまた、民間セクターが成長できるような環境を整えることが必要です。特に小規模な企業は、困難な時期を乗り越える強さを持っています。また、若い人たちの能力を活かすために十分な雇用機会を創出するためには、技術を活用し新しい価値を創ることが不可欠です。

非合法的な資金の流れ、不透明な所有、租税回避を削減することも重要です。これにより、アフリカが自国の社会開発のための資金を調達することができます。

リベリアでは、中小企業への直接的なビジネス研修や新規市場へのアクセスを支援する政策を導入しています。また、若い人たちが公式経済に組み込まれるような雇用機会の創出や、女性が食物のバリューチェーン全体を提供できるよう、その地位向上に取り組んだり、一人当たりの所得向上のため余剰生産を生む支援など、成長が包摂的になるように取り組みを行っています。

(本日発表された)ポスト 2015 年開発目標に関するハイレベルパネル報告書は、まず残された数年で引き続きミレニアム開発目標の達成に向けて力を注ぐことを確認しています。そして、教育や保健の目標は、引き続き新しい目標に含まれなければなりません。さらに新しい目標では上を目指し、貧困の根絶を中心に位置付ける必要があります。そのためには、先に述べたように、経済の変革を起こす必要があります。また、気候変動などの新しい分野は、包摂的なグリーン成長のための環境を整え、私たちが長く苦しめてきた不平等を克服することを可能にするでしょう。

本日この機会に挙げられた様々な視点は、今後の国内および国際的な議論に取り入れたいと考えます。

## 2. 主催者挨拶(概要)

### 「動く→動かす」代表 津山直子氏

サーリーフ大統領ならびに登壇者の方々のポスト 2015 年開発目標および TICAD に向けたコミットメントに敬意を表する。本シンポジウム開催の目的は、格差・不平等の是正に向けた開発の視点が、まだ十分に議論されていないと考えるため。「動く→動かす」では、国内のコンサルテーションを経て出てきた原理原則をまとめた「ポスト 2015 年開発枠組みに向けた 5 カ条の提言」を作成。構造的要因の除去、社会保障の向上、包摂的な社会実現、持続可能な環境・経済モデルへの転換、参加型プロセス、資金調達と分配のあり方などを挙げている。本日は、様々な視点を持ち寄り、考える機会としたい。

## 3. コメント(概要)

### 1) 外務省・大臣官房地球規模課題審議官 香川剛廣氏

TICAD 主催者として、日本政府がどのように新しい開発目標に貢献できるかお話したい。ハイレベルパネル報告書は基本的な土台を提案するもので、その中でも包摂的成長と不平等の克服はキーワードとなっている。ま

た、環境をより中心的に位置づける必要がある。日本は人間の安全保障の概念を基本理念として推進してきた。人間中心の開発は、これまで疎外されてきた人々にも焦点を置くものである。特に日本として重視しているのは、最近発表した保健外交戦略にも言及しているユニバーサル・ヘルス・カバレッジで、これは保健財政と人材に関連する。日本はユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現から50周年を2年前に迎えた。人々が必要な時に適切な保健サービスに負担可能な費用でアクセスできるようにすることが目的で、それが可能な世界を作りたい。もう一つは防災で、これを推進することは日本のミッションである。2015年3月に第3回国連防災会議が仙台で開催予定だが、防災を主流化し、取り組みを強化することが目的。市民社会、政府を超え、多くのステークホルダーの参加を目指す必要がある。日本のODA予算は厳しい状況にあるが、引き続きアフリカとのパートナーシップを構築・強化し、支援を継続する。成長のための土台となるインフラ整備で貢献を行う。

## 2) 国連開発計画アフリカ局チーフエコノミスト兼戦略・アドバイザーユニット長 ペドロ・コンセイソン氏

アフリカでは所得のみならず、人間開発でも高い成長が見られる。国連開発計画の人間開発指標の変化率で見ると、アフリカの国々が上位に位置する。しかし人間開発指標を不平等の度合いで調整するとアフリカが最も低くなり、不平等は特にアフリカにおいて顕著な課題である。経済が生産性の高いセクターに移行し、製造業のようなセクターで新しい雇用機会が創出されれば、より強固な経済成長が得られたであろう。女性の高い失業率や、脆弱な雇用形態は課題である。農業の生産性向上、資源の有効活用が必要とされる。

## 3) 世界銀行アフリカ地域総局戦略業務局長 コリン・ブルース氏

問題を捉えるには、不平等を正確に分析する必要がある。高い不平等を抱える国には2グループあり、1つは資源が豊富な低中所得国、もう1つは紛争脆弱国。失業がよく言われるが、より問題なのは不完全雇用と低い生産性である。不平等はアフリカのみの問題ではなく、他国の事例に解決策を見出すことが出来る。アフリカでも市民社会の参加によるガバナンス改善の例がある。スキルの不一致が起きており、必要とされるスキルに適合した雇用創出が必要。保健、障害、脆弱性などからのセーフティネットも重要である。貧しい国でもユニバーサル・ヘルス・カバレッジを実現した例はある。データの収集、女性のエンパワーメントも重要。

## 4) オックスファム対アフリカ連絡事務所長 デズイレ・アソグバヴィ氏

多くの国で雇用なき成長が問題となっている。不平等は対立の激化につながっている。公正な法的枠組みの導入が求められる。土地収奪などへの取り組みも必要である。平和と安定を追求し、紛争への対応が必要。経済は近代化しても、行政が腐敗撲滅や人権保障などの面で改革されなければ、経済成長が格差是正や貧困解消に結び付かない。ポスト2015年開発枠組みは、アフリカの強靱性・回復力を向上させる必要がある。既存の憲章の実行と統合が重要。国内資金調達も重要だが、開発援助の役割は依然として大きい。新しいパートナーシップ、貿易協定、情報技術などの推進が必要。

## 5) 国際協力 NGO センター理事長 大橋正明氏

不平等への取り組み強化が必要である。ハイレベルパネル報告書の不平等に関する言及を歓迎。富裕層と貧困層の格差を埋める指標が不可欠である。TICADの主要テーマの「経済成長を通じた貧困削減」に懸念。包摂的成長の実現のため、産業、農業、雇用、基礎社会サービス、社会保障、租税などの政策を検討すべき。女性の土地所有や、女性に対する暴力・差別など構造的制約への取り組みも必要。TICADは、人権基盤アプロ

一チや市民社会の参加、資源の分配、累進課税、基礎社会サービスへの普遍的アクセスなどを強く打ち出すべき。引き続き、日本政府と包摂的成長・不平等の TICAD・ポスト 2015 年開発枠組みへの反映、ODA 拠出 0.7%目標、日本の水俣や福島の実験共有などについて議論を行いたい。パネル報告書も言及した生産と消費パターンの見直しも重要。

#### 4. 質疑とコメント(概要)

**質問1:** TICAD のメインテーマはビジネスであるが、成長の恩恵が富裕層よりも、より貧しい人々に届くためには何が必要か。

**質問2:** 経済について多くが話されたが、ガバナンスや安定についての議論も必要。TICAD ではこうしたことが議論される余地はあるのか。

#### コメント:

**香川剛廣氏**— 成長の恩恵が貧しい人々に届かないという懸念はよく理解する。貧困を根絶し、全ての子どもが教育を受け、全ての人々が保健サービスを受けられるようにするためには、その土台に経済成長が必要。パランスを考えながら両方に同時に取り組む必要がある。アフリカは経済成長に取り組むべきタイミングにある。

**ペドロ・コンセソン氏**— 政府と人々の間に、より強い説明責任の関係を作る必要がある。他国の事例を見ると、ブラジルでは革新的な社会保護政策と雇用機会の創出を組み合わせた。成長の質を高めるには、脆弱な雇用の問題に取り組む必要がある。

**コリン・ブルース氏**— シエラレオネやケニアなどの事例を見れば、市民社会がまず政府に情報を求めることが重要。ケニアは情報公開に積極的に取り組んでおり、今後注目される。市民社会の政策提言により、政府の政策転換、説明責任を求めることができる。市民社会の活動に期待。

**デズイレ・アソグバヴィ氏**— 一般市民が政策決定に参加し、意見を表明出来る環境が重要。

#### 5. 総括と閉会挨拶(概要)

**大橋正明氏**— ハイレベルパネル報告書発表と TICAD 開催で、非常に重要なタイミングにある。ハイレベルパネル報告書の内容は、100 点満点ではないが、かなり高得点で、重要な要素が多く含まれている。今後のプロセスには未定な部分もあるが、アフリカや TICAD は今後の政府間交渉でも重要な役割を果たすことが出来ると考え、今回のイベントを開催した。経済成長をどう捉えるか。経済開発が貧困削減に必ずしもつながらないと理解されるまで数十年間かかり、21 世紀になってからようやく人間開発の議論やミレニアム開発目標で正しい方向には進んでいる。最近 ODA 削減が続くが、民間セクターには多くの資金がある。だからと言って、貧困や格差の削減などを民間セクターに全て任せて良いのか。ここにはまだ明確なビジョンがなく、多くの人が懸念している。包摂的成長を真剣に考える上で、アフリカの国々と日本は大きな役割を果たすことが出来る。